

令和6年度全国優良経営体表彰受賞者（東北農政局管内分）

全国担い手育成総合支援協議会会長賞

【経営改善部門】

秋田県秋田市 農事組合法人^{ひらさわ}平沢ファーム

代表理事 ^{さいとう} 齊藤 ^{またうえもん} 又右衛門 氏

経営規模：93.4ha（水稲 38.2ha、大豆 43.7ha、ねぎ 1.6ha、えだまめ 8.3ha、
ダリア（施設）10,000 m²、ダリア（露地）0.6ha）（注）数字は令和5年当時のもの



代表の齊藤又右衛門氏



平沢ファームのみなさん

経営展開のポイント

- ・ 集落の担い手として平成26年に法人設立し、地域の約8割の農地を集積している。水稲と大豆のブロックローテーションによる土地利用型農業を経営の柱としながら、高収益部門としてえだまめ、ねぎ、ダリアを導入し、収益を確保するとともに、新たな地域雇用を創出し、地域の活性化に寄与している。
- ・ 複合部門の部門長に若手従業員を配置し、人材育成や組織全体の技術力向上・平準化を図ることにより、効率的で生産性の高い栽培管理を実現しているほか、円滑な技術継承につながっている。
- ・ 地域の小・中学校の農業体験学習や職場体験学習、インターンシップの受け入れに加え、定年退職者の雇用による潜在的な地域労働力の活用や、地域外の雇用就農希望者の受け入れなどにより、多様な人材の確保を実現しており、ひいては将来の後継者候補の確保が期待される。
- ・ 就労環境の整備や、情報共有等の仕組みを改善するなど、性別を問わず働きやすい環境作りを進めている。
- ・ 中小企業診断士の指導を取り入れながら、営農計画の改善に取り組み、更なる経営基盤の強化を進めている。

令和6年度全国優良経営体表彰受賞者（東北農政局管内分）

全国担い手育成総合支援協議会会長賞

【経営改善部門】

宮城県亘理町 さいとう ゆう き 齋藤 勇紀 氏

経営規模：88.0ha（主食用米 55.0ha、飼料用米 33.0ha）（注）数字は令和5年当時のもの



齋藤勇紀氏



齋藤氏とご家族のみなさん

経営展開のポイント

- ・ 昭和47年の就農以降、水稻部門の規模拡大に取り組み、就農時5haであった水田経営面積が、現在は91haまで拡大。亘理町内では、農業の担い手の高齢化や後継者不足の他、特に東日本大震災後は、津波被災に伴う離農により農地の荒廃が危惧されたが、そのような中、常に「亘理町の水田を守る最後の砦」としての意識を強く持ち、地域農業の受け皿として生産活動に取り組んできた。
- ・ 農業委員会会長等の役職を引き受け、農地の集積・集約化を推進するなど、地域農業をけん引。
- ・ 水管理システムや自動操舵トラクター等のスマート農業技術を積極的に取り入れることで作業の効率化・省力化を図り、100haを超える経営規模を目指している。
- ・ 本人夫婦、後継者夫婦に長女を加えた家族経営であるが、将来的には経営の法人化も視野に入れている。後継者との間には家族経営協定を締結しており、他の家族も含めて休日や給料について取り決めがなされ、性別や年齢による差はなく、他産業並みの給与が支払われる等、「農業」の枠を超え、他産業を意識した経営感覚で、皆が自家の農業経営に意欲や、やりがいを持てるよう労働環境を整備。

令和6年度全国優良経営体表彰受賞者（東北農政局管内分）

全国担い手育成総合支援協議会会長賞

【経営改善部門】

福島県只見町 株式会社新国農園 につくにのうえん

代表取締役社長 につくに 新国 しんや 真也 氏

経営規模：10.5ha（トマト（施設）5,700㎡、水稻8.7ha、そば1.2ha）（注）数字は令和5年当時のもの



左：代表の新国真也氏

右：新国農園のみなさん

経営展開のポイント

- ・ 平成30年に家族経営から法人化。地域の特産である「南郷トマト」と水稻栽培を柱とした経営を行っている。
- ・ 高い技術力に裏付けられた的確な管理により、南郷トマトの単収は生産組合平均の1.7倍という多収穫を実現。水稻については町内の法人等5者と「只見米ブランド協議会」を結成、JGAP認証取得とともに旧エコファーマー基準により栽培し「粒厳選生産者限定南会津只見産コシヒカリ」として販売。
- ・ 豪雪地帯の只見町において周年雇用を行う上で大きな課題であった冬期間の仕事を確保するため、米の製粉と加工に取り組んでいる。
- ・ 南郷トマト生産組合副組合長を務め、後継者育成に尽力しているほか、精力的に地域の小・中学校や高校の農業体験の受け入れなど、農業理解等の活動を行っている。
- ・ 地域の担い手として、今後も農地を集積し経営規模の拡大が期待されている。

令和6年度全国優良経営体表彰受賞者（東北農政局管内分）

全国担い手育成総合支援協議会会長賞

【販売革新部門】

宮城県丸森町 はるはなファーム株式会社

代表取締役社長 すずき まなぶ
鈴木 学 氏

経営規模：8,300 m²（花苗等 ハウス 5,300 m²、露地 3,000 m²）（注）数字は令和5年当時のもの



左：代表の鈴木学氏 右：はるはなファームのみなさん

経営展開のポイント

- ・ 平成25年に法人設立。造園業者やプロのガーデナーが使用する宿根草を中心とした花壇苗の生産販売を行っており、年間800品種、約65万ポットを出荷。
- ・ 法人化以前から継続する委託生産で経営を安定化しながら、自社販売先として園芸専門店、ネット通販業者、造園業者向けに販路開拓を続け、高価格帯の品種出荷により、年間販売額1億円を超える企業へと成長している。
- ・ 自社の強みを生かした販路開拓にむけた戦略として、ナチュラルガーデン材料を中心に多品種を生産することで、出荷先にワンストップの仕入れを提供できる体制をつくとともに、代表取締役自らがナチュラルガーデンのスペシャリスト（デザイナー、ガーデナー）としての経験や知見を生かした提案型の営業を行っており、これによって毎年50～70件の新規顧客を獲得。